

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育目標 「自ら未来を切り拓く 心豊かでたくましい人間を育てる」 ～希望進路の実現を支援する学校づくりをめざして～

教育方針 1 学力の充実を図り、希望進路を実現させる 2 学校行事・部活動を充実させる 3 基本的な生活習慣を確立させる 4 安心できる学校生活を確立させる

2 中期的目標

1 生徒が夢と志を抱き、希望する進路を実現させるための進路指導の確立

(1) キャリア教育を充実させ、生きる意味、働く意味、学ぶ意味を考えさせ、具体的な夢を描かせる。

ア 3年間の進路指導計画を策定し、生徒が主体的に進路実現できるよう指導する。

(2) 将来の夢への入り口となる進学をめざすために、チャレンジする意欲を醸成し、粘り強く取り組む力を養う。

ア 「行ける大学」ではなく「行きたい大学」への進学をめざす。

(3) 「夢のとびらプロジェクト～2nd」を継続し、生徒が活用する進路指導室の形成を進める。

※国公立大学の受験者数 R4年度には60人をめざす。(H29:25人、H30:40人、R1:47人) 受験者数は16

※国公立大学及び関西5私立大学(関学・関大・同志社・立命・近大)への現役進学者数を100人に引き上げる。

(H29:73人、H30:52人、R1:84人)100名以下(現在未定)

2 「確かな学力」の育成とそのための教員の授業力の向上

(1) 生徒に自己の進路実現と学力の関連性を意識させ、学習意欲を向上させる。

ア 志望する大学等へ進学するために必要な学力を意識させ、授業第一主義を確立するとともに、家庭や放課後での学習(自習力)を充実させる。

イ 自分の意見・考えをまとめる力、自分を表現し伝える力を育成する。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善に取り組む。

ア 大学入試改革に対応するためだけでなく、社会に出てから求められる力としても重要視し、ICTを活用した効果的・効率的な授業、生徒が積極的にアウトプットする機会を活かす授業の推進を図る。

イ 他校での先進事例の視察や、教育センター並びに教育産業が主催する研修・講演会等への積極的な参加により、新たな指導について研究する。

(3) 資質・能力の育成につながるよう多面的・多角的な学習評価の工夫を図る。

ア 全ての教科で観点別評価による「指導と評価の年間計画(シラバス)」を作成する。

3 心豊かでたくましい人間性の育成

(1) 他者理解と多様性を尊重し、鋭い人権感覚を育成する。

ア 生徒が主体的に学べるような感性に訴えるプログラムを提供する。

イ 学校行事・部活動・ボランティア活動・インターンシップ等への積極的な参加を図る。

ウ 海外研修と海外からの留学生の招聘を実施し、国際交流を通じて多様な文化を体験し国際的な視野を育成する。

(2) 情報リテラシー及び情報モラルを育成する。

ア インターネットを効果的で正しい使用ができるように、専門家による指導を含めた具体的な指導を継続させる。

(3) 生徒が安心できる学校生活を確保し、基本的な生活習慣の定着・改善を図るとともに、規範意識を向上させる。

ア 教員が寄り添いの姿勢で生徒に接し、生徒が相談しやすい指導体制を充実させる。

イ 生徒の基本的な生活習慣(あいさつ、時間、身だしなみ、交通マナー、美化活動及び授業態度等)の改善・定着に取り組む。

4 地域に開かれた学校づくりと魅力ある学校づくり

(1) 本校の教育活動の内容について積極的に情報を発信し、地域に活動の理解を広げるとともに、魅力ある学校となる。

ア 学校説明会の実施方法の工夫として在校生による中学校訪問を定着させ、生徒の成長を発信する。

イ HPの充実を図り、魅力を発信する。

ウ メール配信を定期的実施し、保護者との連携を深める。

(2) 地域との交流・連携を推進することにより、学校を活性化し、学校への信頼を高める。

ア 授業や部活動、生徒会活動などとおして、地域の活動等に積極的に参加し、小学校、保育所など各機関・団体との交流・連携を推進する。

イ 裏山を活用した環境教育を推進し、持続可能な社会の実現に貢献する。

ウ 地域と連携した防災教育の充実を図る。

5 校務の効率化

(1) 部活動指導を効率的に行い、長時間勤務の縮減を図る。(2) 各分掌、学年での年間業務を整理する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <p>・「授業はわかりやすい」(生徒)の肯定が69.0→71.8で今年も伸びている。授業研究週間の取組や全国の授業事例閲覧が可能なサイトを導入するなど発信、学習支援クラウドサービスの活用等が寄与していると考えている。</p> <p>・「発表する機会がある」(生徒)では71.0%→77.3%と今年も大幅に伸びており、アウトプットする授業や機会を充実させていることがわかる。特に「総合的な探究の時間」の影響も大きいと考える。今年度より3年間を見通した計画を立てて進めている。</p>	<p>第1回学校運営協議会：令和2年7月27日(月)午後3時～午後4時30分</p> <p>★臨時休業期間中の対応等について</p> <p>(校長)当初、教育産業が運用している学習支援クラウドサービスの活用を予定。無料利用期間が突然終了することとなり困惑。GW中に代替のシステムを検討し、他の学習支援サービスを活用することを決定。情報技術に長けた教員が主導し、全教員が構築のために奔走し、導入に至る。構築チームと研修チームを立ち上げ組織的に動いたことが良かった。3週間で作り上げたことは成果。この学習支援クラウドサービスを活用して、生徒の健康状態のチェックや動画・教材の配信をオンデマンド型実施。研修チームが率先し、手探り状態の教員をまとめ、配信用の課題作成を実践。課題として、家庭での通信環境によって課題を見ることができない生徒がいること、学校の情報機器が少なく教員の課題作成に差し障りがあることなど、個別の対応が大変であった。こののちに教育委員会がサポートに動き出すが、これを待たずに本校独自に構築したことは生徒にとっても意義があったのではないかと。</p> <p>次に学習保障で授業日数を確保するのであるが、かなりの過密日程であり、生徒だけでなく教員の健康についても非常に心配。その影響もあり学校行事については、様々な変更の検討を要する状況。入学式は、入学セレモニーとして生徒のみ、内容も限定して実施し、保護者にはダイジェスト映像を配信。6月実施予定の体育大会は10月ごろまで延期する予定で実施種目についても検討中。文化祭は9月末に実施するが、一般客の来場は不可と考えている。この2つの行事は開催意義が大きく生徒たちが大変楽しみにしているので、生徒たちの声も聞きながら検討中。修学旅行は12月に北海道に行く予定。感染症対策などを万全にししながら、実施したいと考えている。校外学習については、2学期以降に延期して状況を考慮しながらの計画。</p>

府立刀根山高等学校

探求以外の授業でもアウトプットする機会を増やし、考えさせることを重視する授業構成を考えなければならない。

- ・進路情報の提供は「情報は提供されている」（生徒）において肯定が 88.5%→89.3%と微増。共通テストが始まったこと、今後の大学状況、入試状況についてもっと情報提供していかなければならない。提供の方法として教育産業の資料を有効活用することを進めたいと考えている。教員にはそのスキルを高めることを促進したい。

【生徒指導等】

- ・相談機能においては「相談にのってくれる先生がいる」（生徒）で 70.2%→71.6%と微増している。一方教員では「相談体制が整備され、学級担任以外にも相談できる」で 85.2%→94.2%と大きく伸びている。教員全体で寄り添う意識が高まっていると思われる。生徒に比例した伸びがないのは、寄り添い方、等のスキルの向上が必要なのではないか。教員の生徒への接し方をさらに充実させることで生徒の数値を伸ばしたい。

- ・部活動関係の指標においては「部活動に積極的に取り組んでいる」73.0%→76.8%、「部活動を通じて成長している」77.3%→80.5%と伸びており、制限がある中でも効率的な練習を積み満足度が増しているのではないかと考えている。実際、運動部であれば上位進出、文化部でも地域貢献の充実が多くあり、パフォーマンスでも向上を感じている。さらに高みを目指せるよう環境整備でバックアップしていきたい。

- ・「人権の大切さを学ぶ機会がある」では 82.6%→75.8%と下がっているが、講演や人権よりは例年通りに行っている。授業や行事内では人権について触れる時間を持つことができなかつたのではないかと考えている。人権感覚は学校教育全体で人権について考える機会を作ることで醸成されていくものなのだと感じる。次年度はそういうことを意識して臨みたい。

【学校運営】

- ・「学校へ行くのが楽しい」では 82.7%→82.9%と横ばいであるが、この事態の中では評価できる範囲と考える。本校の場合は行事を安全確保の上でできるだけ実施していたり、人間関係構築等にも細心の注意してきたことが寄与しているのではないかと考える。

- ・「文化祭や体育大会は活発で楽しい」では 86.6%→83.0%と下がっているところを見ると、縮小開催の影響はあるが、教育活動全体を通じて教員からの励ましや支援が生徒を支えているのではないかと推測する。

- ・教員「校長は理念や明確な考えを持っている」72.2%→67.6%
「教職員の意見が反映されている」50.0%→44.1%となっている。校長からの発信が不足していると言える。反映については詳細を確認していく必要がある。

- ・教員「教員間で授業方法等の検討する機会を持っている」81.5%→64.7%と大きく低下。感染症対策で余裕がなかったとはいえ、心配になる数値。観点別評価の導入、タブレットPC導入など次年度以降は相互に学びあう姿勢は必至であるので、組織的にも学びあいやすいよう取り組み、充実させたい。

先ほども話したが、校内の ICT 機器の充実にも力を入れていきたい。職員室と体育教室には、専用の通信回線から Wi-Fi の無線通信を可能にした。り、動画作成用 PC ・機器の導入等、また活用方法の工夫を検討。

★協議

＊困難な状況の中、先生方が頑張っていただけということが分かりました。オンライン授業のシステム構築など、すごいと思います。後援会としても学校にお手伝いできることを考えていきたいと思います。

＊中学校でも臨時休校中の家庭への連絡等、非常に苦労しました。また、学校行事の内容については議論をしながら、決めていかねばならず、例年より準備に時間がかかっている。

＊大学では、ほぼ全ての授業をオンライン実施しており、キャンパス内には生徒がいない状態になっている。授業の準備は、初め大変であったが、今は慣れてきたと感じている。高校でも大変だと思うが、頑張っていたきたい。

＊新型コロナウイルス感染症の影響により公民館で主催する各種行事も中止等になっているが、人数を制限して実施する予定であるので、刀根山高校には生物エコ部の協力や裏山の利用の許可をお願いしたい。

＊自治会での例年どおりの行事開催は豊中市からの指示もあり、実施できないと考えている。刀根山小学校の分散登校時は刀根山高校の登校と重なった時間帯があった。小学生もみているので、登校マナーの徹底（横断歩道を必ずわたるなど）をお願いしたい。マナー改善のため立ち番を設定して改善。

＊先生方には子どもたちがお世話になっております。PTA としても学校に協力していきますので、今後とも連携をお願いします。

第2回学校運営協議会 日時：令和2年12月14日（月）午後3時～午後4時30分

★各行事対応について説明

（特活部長より）体育大会・文化祭ともに開催するかどうかを含めて検討。近隣校の対応を調査して、生徒達との話し合いも十分に行い、感染症対策を徹底しながら実施することになった。文化祭は9月25日実施した（一般参加なし）。3年生は受験前であるため、生徒たちから「負担が大きい」という声があがり、クラス単位での参加はせず他学年の企画等への観覧と有志発表者としての参加のみになった。開始後しばらくはマスクの着用しない生徒が多数出るなどの混乱が生じたが、全体に注意喚起した結果、それ以降は落ち着いた雰囲気の中行われた。

体育大会は、10月2日に実施（保護者の観覧なし）。例年より、各団の応援席の間隔を広げたり、実施競技毎の参加人数を減らしたりして、生徒たちが密にならないように実施。例年以上に、各行事について考える良い機会になった。生徒たちとも話し合いながら、来年度の各行事の実施内容について検討していきたい。

（教頭）12月8日～11日、北海道へ2年生の修学旅行（スキー講習が主）を実施。大阪・北海道の状況が悪化する中での実施だったが、滞在先の新得町に感染者が発生していないこと、現地の医療機関の状況が通常通りに診察を受け入れていること等を十分に確認して現地へと赴いた。滞り期間中、大きな怪我や高熱を発する生徒もでず、全員で帰阪できた。この状況下の中で感染症対策を徹底してくれた生徒たち、2年学年団の頑張り感謝。

★カリキュラム等について

（教務部長より）教育課程表（46期2022年入学）を提示

令和4年度入学生から新学習指導要領となり、カリキュラムの改訂を検討中。現在、特に注視しているのが、大学入学共通テストにどの科目が必要になるかである。本校は大学入試をする生徒が大半を占めるため、カリキュラムへの影響が大きいと考えている。

（首席より）令和4年度より、各科目の評価の中に従来の考査素点や平常点を付いた数字での評価だけでなく、観点別評価が導入される。本校では、教員研修を開催して周知と検討を進めているが、特に「生徒の主體的な取り組み」についての評価について、教員の主観的要素も入りこむことが予想されるので、客観的な手法をどう取り入れるか等を検討。

（首席より）資料有（44期1年生総合的な探究の時間について、「2年生総合的な探究の時間」実施概要）提示

総合的な探究については、2年生、1年生で実施中。1年生は資料の調べ方、グループワークのスキル習得、個別の探究などを実施。2年生は大学の学部・学科調べ、ロジカルシンキングの手法、ディベートの実践などを実施。今後3年生次には、生徒ごとに個別のテーマを設定して、各自での課題探究を実施していきたいと考えている。

★生徒指導について

（生指部長より）資料（令和2年度生活指導部報告）提示

生徒手帳を廃止して、3年間家庭で保存してもらう「学校生活の手引き（仮称）」を作成中。12月4日現在の問題行動・遅刻指導の件数を示した。1学期は期間が短かったので前年度より減少しているが、期間が長い2学期でも減少している。特に3年生は大きく減少。登校時のマナー等について、近隣の方から登校マナー等についてご注意いただくこともあるが、そのたびに日常の指導に加えて、生徒たちへ注意喚起を実施。

★進路指導について

（進路指導部長より）3月まで自分の希望する大学を目標にして頑張るように指導。今年度は指定校推薦の合格者が61名で多い。入試に対する安全志向の傾向がある。まだ、進路が決定していない生徒もいるので、頑張らせているところである。

★学校経営計画（校長より）令和2年度報告（案）と令和3年度計画案を提示

令和2年度の学校評価について本年度の重点目標ごとに説明と評価を説明。各項目について評価指標と評価を示し、報告。

令和3年度が校経営計画案については総じて令和2年度と大きな変化はないが、追加する中期目標を説明。

★協議

（1）各行事対応について

＊（今回の話を聞いて）随分いろいろな対応をしていただいていることが理解できた。良かったと思う。＊学校も各対応が大変であったと思う。

（校長より）生徒たちへの学校行事の影響の大きさ、大切さを改めて感じた。

（2）ICT環境について

＊来年度に向けて前もって準備しているのは良い。私立はもっと進んでいると感じている。公立高校では対応は大変だろうが頑張ってもらいたい。

（校長より）デジタル教科書の活用など、全生徒が端末を持つメリットを生かしていきたい。

＊中学校には全生徒に情報端末が整備された。まずは、生徒達への利用方法の説明の時間をとる必要があった。授業ではNHK for Schoolなどを活用しているが、各生徒によって視聴するタイミングが異なるため、イヤホンの用意を検討している。また、端末にインストールされているアプリにドリルがあり、紙のドリルの代わりに活用している。課題として、端末の家庭への持ち帰りや学校での保存方法などがある。

（3）カリキュラムについて

＊総合的な探究についての説明で「個別の探究」について詳しく教えて欲しい。

（首席より）1年の個別の探究では、テーマを部活動または教科について絞って実施した。生徒によって課題解決に対しての取り組みには差はあるが、今年はテーマについて自ら考える機会ととらえている。優秀なテーマ探究を発表させようと考えている。2年生になったら、地域と進路についてのテーマ設定を行い、フィールドワークもやっていこうと考えている。

（4）生徒指導について

＊刀根山高校の生徒に対する近隣住民の方からの意見を読ませていただいた。私も朝、刀根山小学校の登校時間やその後の時間（7:45～8:30の間）に毎日立っているが、ほとんどの刀根山高校の生徒は挨拶してくれるし、横断歩道もきちんとわたってくれるようになっている。先生方も地域の人達が生徒たちを見守ってくれているということを理解していただき、生徒の指導をお願いしたい。

＊遅刻が少ないのはどんな原因がありますか。

（生指部長より）

3年生は遅刻だけでなく欠席も少ない。例年は進路が決定する生徒が休みだす時期ではあるが、今年はそんな生徒も少なく生徒たちは「学校が好き」と感じているように思える。新型コロナウイルスの影響で休校期間が長く、学校に登校できなかった影響もあると思われる。

＊娘も休校間中は「学校に行きたい」とよく言っていた。今も楽しそうに学校に登校していて、親として喜んでいる。

（5）その他

＊中学校ではいくつかの学校行事が実施できず、学校が楽しいと感じる生徒が減っているようである。刀根山高校が行事を保障しているのはすごいことだと思う。

＊生物エコ部の生徒たちが公民館や地域の活動に積極的に参加してくれています。箕面市でのイベントや空港の干渉緑地での生物観察、小学校のピオトープの整備に活躍しています。学校経営計画の評価の参考にして欲しい。

＊新型コロナウイルス対策で学校は大変だと思いますが、生徒たちのために頑張ってもらいたい。

（6）学校経営計画について

（副会長）校長より説明がありましたが、意見はないので、これで進めることをお願いします。

第3回学校運営協議会 日時：令和3年2月初旬 緊急事態宣言下のため書面による開催

第3回は緊急事態宣言下のため書面により報告をさせていただき、その後意見集約、回答と進めた。

府立刀根山高等学校

	<p>★ご意見の集約と回答</p> <p>*コロナ禍にもかかわらず、生徒からは肯定的な回答が多いことはよかったです。⇒コロナ禍を考慮すると取り組みが伝わったかなと感じております。</p> <p>*生徒の項目1：「授業がわかりやすい」が伸びていることはすばらしいと感じた。⇒コロナ禍の中で生徒の回答が伸びていたことは、安心しました。</p> <p>*生徒の項目4：「自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」では伸びており、主体的で深い学びが進んでいるのではないのでしょうか ⇒探究の時間を筆頭に教科でもその観点で指導計画を工夫していただいています。まだまだこの観点の指導は強化したいと考えております。</p> <p>*保護者では肯定的な回答も多いが、項目11・21・25において低くなっているが。 ⇒項目11：「長期休暇中の講習や進学講座がある」ですが、おそらく4、5月の休校中の対応が足りていないと分析しております。 ⇒項目21：「授業参観や懇談会・学校行事に参加したことがある」ですが、これは学校行事、特に体育大会、文化祭に来場いただけなかったことによるものと分析しております。 ⇒項目25：「学校は授業や活動を通じて地域と交流している」ですが、多くの企画が中止となったためと分析しております。</p> <p>*教職員では肯定的な回答が低い項目も見受けられます。⇒コロナ対応の影響があるとは思いますが、校長からの発信不足とも考えています。</p> <p>*コロナ禍の中で創意工夫して取り組まれていることは感じています。⇒本当に時間をかけて検討しました。大変でした。</p> <p>*地域連携としてはやむなく中止した企画もありましたが、実施した企画では地域からも感謝の声も届いております。 ⇒生物エコ部や家庭科の授業等で取り組めることを工夫していただいたことが伝わり、うれしく思います。</p> <p>*HPへの関心が少ないようなので、改善してはいかがでしょうか。他校のHPも拝見しましたが、デザインは良いと思います。 ⇒情報内容を充実させることを考えてまいります。各サイトごとのアクセスデータを取っておりますので、その分析も活用してまいります。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 希望する進路を実現させるための進路指導の確立 生徒が夢と志を抱き、	(1) キャリア教育充実と具体化 ア 3年間の進路指導計画の修正を図る。 生徒が主体的に進路を実現するように指導	(1) ア・個別のガイダンスを展開し学年全体・学校全体で長所や課題を共有し、今後の進路指導に生かす。 ・センター試験に代わる共通テストへの移行に伴い、私立大学入試対応も含めてリキュラムの見直しを進める。	(1) ア・学校教育自己診断(生徒)「学校で将来の生き方について考える機会がある」 肯定的回答 91%(R1 89%) ・カリキュラム改正を行ったかどうか	・探究の授業でも個々の将来を考える機会を設け、深く考える機会は提供できているが、進路ガイダンスで外部を活用する取り組み等が制限された影響で数値はわずかに届いていない。90%【△】 次年度は、新たな機会を設けるのではなく、教育産業のデータを有効活用すること等ガイダンスの質を高めることを課題とする。 ・文科省が大学入試について明確な発表を行わないのでその連動性が確定させられていないが、将来の体制について十分に検討を加え決定した。【○】
	(2) チャレンジする力と粘り強さの育成 ア 行きたい大学へ進学するためのガイダンス	(2) ア・入学当初に高校生活や学習法について丁寧に説明するとともに、3点(起床・自宅学習開始時刻・就寝)を自律的にチェックさせる。 ・1年時に大学訪問し、大学のイメージを具体的にする。成績及び進路に関して教科担当者による面談を実施する。	(2) ア・学校教育自己診断(生徒)「進路についての情報を提供される」肯定的回答 90%(R元 88%) ・国公立大学受験者数 50人(R1 47人) ・国公立及び関西5大学への現役合格者 90人(R1 84人)	・コロナ禍のなか、進路ガイダンスを可能な限り実施し、生徒・保護者を混乱させることはなかった。1年生は3点のチェックを行い学習習慣の確立には寄与していると考えている。情報提供 90%【○】 次年度は具体的には学習時間を増加させることを数値目標として図っていく。 ・国公立大学受験者数は16名であったが、コロナ禍、共通テストの変更の影響があり、今年度は安定志向が強く、減少した。【△】 国公立大学受験を意識させることをはじめ、進学について1年次からガイダンスを組み込むことが重要。 ・国公立大学、関西5大学への現役合格者数は現段階では未定であるが、ここでも上記に影響により減ずると思われる【△】
2 「確かな学力」の育成とそのための教員の授業力の向上	(1) 学習意欲の向上 ア 必要な学力の獲得と授業第一主義の確立、そして自学自習の充実 イ 自分の意見・考えをまとめる力と自分を表現し伝える力の育成 (2) 授業改善 ア 大学入試改革へ対応するためICTを活用した効果的・効率的な授業の推進 イ 他校での先進事例の視察や、教育センター並びに教育産業等が主催する研修・講演会への参加	(1) ア・模擬試験の結果を通して全国での自分の実力を認識させ効果的な学習を支援する。 ・自習室の活用を推進し、自学自習を支援する。 イ・論理的思考力・発信力・課題解決力を育成する。 ・授業の中で、ディベートやプレゼンテーションをはじめとした手法も用いて「考え、表現する力」を養成する。 (2) ア・大学入試改を把握し、変化に対応できるよう授業を改善する。 ・Webで全国の先進事例を学び、効率的に授業改善を進める。 イ・研修内容を発表する機会をつくり、共有を積極的に進める。	(1) ア・授業アンケート「集中して授業を聞く」 肯定的回答 90%(R1 年度 88%) ・学校教育自己診断(生徒)「学校の授業は分かりやすい」肯定的回答 72%(R1 69%) イ・学校教育自己診断(生徒)「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」 肯定的回答 73%(R1 71%) (2) ア・授業アンケート「授業に興味・関心」 肯定的回答 78%(R1 76%) ・ICTを活用した授業の教員実施率 90%(R1 87%) イ・年2回の授業研究週間と研究協議の実施	・授業アンケート結果「集中して授業を聞く」肯定的回答 第1回、第2回の平均 91.5%【○】 ・学校教育自己診断「学校の授業はわかりやすい」コロナ対応の中ではよく伸ばすことができたと考えている。継続してこの数値が伸びるように取り組みたい。 肯定的回答 【72% ○】 ・探究の取り組みの影響が大であるが、それ以外の授業でも取り組む事例がみられることがこの数値が伸びた要因と考える。考える力をつけるという実践が広がっていると判断している。 学校教育自己診断「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」 肯定的回答 77%【◎】 今後も社会で生きる必要な力として生徒に伝え、積極的な臨み方を促していく。 ・授業アンケート結果第1回のみ 肯定的回答 79%【○】 まだまだ授業改善を進めるよう伝えていかなければならない。その際導入されるタブレットPCの有効活用はインパクトが大きい取り組みとなる。全体で共有しながら取り組みたい。 ・オンライン体制構築の際に直接自分で対応していない教員はわずかであった。 教員、生徒のタブレットPCが普及するので当然ではある数値。教員のICT実施率 94%【◎】 ・授業研究週間・研究協議の実施 1学期は休校で実施できなかったが、2学期には実施し、探究についてと観点別評価について研修を実施した。 アクティブラーナーにより先進事例を見やすくしたし、中学校の先生を招きご意見をうかがう機会も設けた。 有効的であった。【◎】

府立刀根山高等学校

<p>3 心豊かでたくましい人間性の育成</p>	<p>(1) 他者理解と多様性の尊重 ア 感性に訴えるプログラムの提供</p> <p>イ 各種行事への積極的な参加</p> <p>ウ 国際交流による国際的な視野の育成</p> <p>(2) 情報リテラシー及び情報モラルの育成 ア 生徒が加害者にも被害者にもならないための対策の実践</p> <p>(3) 安心できる学校生活の確保と基本的生活習慣の定着・改善を図り規範意識向上 ア 教員の寄り添い姿勢充実により相談体制を充実</p> <p>イ 基本的生活習慣の改善と定着</p>	<p>(1) ア・人権教育推進委員会と学年・教科が連携し、生徒が主体的に学べるような感性に訴えるプログラムを提供する。</p> <p>イ・地域の団体や幼稚園、専門学校等と連携し、ボランティア活動やインターンシップ等への積極的な参加を促す。</p> <p>ウ・夏季に10日間オーストラリアにて語学研修継続実施参加者が有意義と感じるプログラム計画</p> <p>(2) ア・SNS等の活用について、教科「情報」の授業に加え、専門家を招聘して全生徒に講義や講演を行う。</p> <p>(3) ア・学年及び委員会など校内の組織間及び外部機関や中学校との連携を強化して、生徒情報の共有に努め、生徒支援体制の充実に努める。 ・教育相談委員会を核とし、スクールカウンセラーの指導・協力のもと、ケース会議の開催などによりメンタル面で課題を抱える生徒を支援する。 イ・遅刻数を減少させるために生徒会からの発信を強化する。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(生徒)「学校の授業や行事で人権の大切さを学ぶ機会がある」肯定的回答 85%(82%)</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒)「文化祭や体育大会は、活発で楽しい」肯定的回答 88%(R1 86%)</p> <p>ウ・参加者アンケートの回答「十分に満足」65%(R1 63%) 「参加して自分が変わった」50%(R1 46%)</p> <p>(2) ア・専門家による講義や講演の回数 講演実施 1回維持</p> <p>(3) ア・学校教育自己診断(生徒)「悩みや相談に親身になって聞いてくれる先生がいる」肯定的回答 73%(R1 70%)</p> <p>イ・遅刻数の前年度より減少させる (R1 2453回)年間数値</p>	<p>・「授業や行事で人権の大切さを学ぶ機会がある。」 生徒への講演、人権よりは例年通りの質と量を提供できていた。しかし授業で人権に関して伝える余裕はなかったと思われる。 肯定的回答 76%【△】</p> <p>・文化祭や体育大会は活発で楽しい。 コロナ対策を十分に講じて実施しており、例年よりは低い数値ですが、逆にこれだけの満足度を獲得できたことは評価しても良いという判断をしている。 肯定的回答 83%【○】</p> <p>・コロナ禍のため語学研修は中止【一】</p> <p>1年生全体へのSNS講習 情報の授業での講座 1回開催【○】</p> <p>・「相談に乗ってくれる先生がいる。」 肯定的回答 73%【○】</p> <p>・養護教諭の協力、SCとの連携が充実した。教育相談連絡会、相談委員会では各ケースを把握し、担任や全体との連携を深め教育相談体制が進んだ。【◎】</p> <p>・遅刻数は1学期に休校期間や半日登校があり単純比較できないが、大幅に減少。 R2:1783回 大幅に減らすことができています。【◎】</p>
<p>4 魅力ある学校づくり 地域に開かれた学校づくりと</p>	<p>(1) 本校の教育活動の積極的な情報発信 ア・在校生(1年生)の中学校訪問</p> <p>イ・HPの充実</p> <p>(2) 地域との交流・連携の推進 ア 地域の学校や保育園などとの交流・連携の推進</p>	<p>(1) ア・在校生(1年生)による中学校訪問を実施し、生徒の成長や生の声を提供して本校の魅力を発信する。</p> <p>イ・HPの更新を行い、閲覧者数を増加させる。</p> <p>(2) ア・裏山等の刀根山の特徴を活かし地域連携を推進する。 ・地域の学校や福祉施設等との連携事業や地域との防災行事などに取り組む。生徒のボランティア活動をサポートする。</p>	<p>(1) ア・生徒(1年生)の出身中学校訪問を90%以上 44期生は65中学校より入学</p> <p>イ・新規 ホームページの閲覧件数増 5000回以上 (HPを再構築したため、R1は測定不可)</p> <p>(2) ア・裏山の活用状況 ・地域行事等への参加回数の増和と元年度の取組を維持する。 6回 (R1 14回) 感染症の影響のため</p>	<p>・中学校訪問は中止、第1回学校説明会、部活動見学会、文化祭見学と多くが中止となったが、校長による解説映像をHPに掲載、学校説明会でも別の動画を見ていただく等、コロナ禍の中で安全を確保しながらも、本校についての理解が深まるように設定した。【一】</p> <p>・コロナ対応で多忙を極め、HP内容充実を果たすことはできていない。しかし閲覧回数は説明会等が実施されていない影響のためか現段階では大幅に増加している。 ・HP閲覧ユーザー数 61497名【○】 大幅に上回っているが指標を再考する必要がある。</p> <p>・裏山関係の行事はほぼ中止。【一】</p> <p>・地域清掃、豊中市コロナ対策の映像作成、豊中市“NO DRUG”啓発用デザイン、生物エコ部が阪大とのコラボ研究等の新しい企画も立ち上げて、回数は目標に達していないが、有効的な活動を実施できた。【○】</p>
<p>5 校務の効率化</p>	<p>(1) 時間外勤務時間の縮減と職場環境の改善</p> <p>(2) 各分掌、学年での年間業務を整理する。</p>	<p>(1) ・部活動に係る活動方針を遵守し、効率的な指導を実施</p> <p>(2) ・年間業務を一覧表にして、業務の効率化を検討する。</p>	<p>(1) ・年間活動における休養日全クラブ105日以上</p> <p>(2) ・ストレスチェック総合リスクを下げる。 111以下に(R1 111)</p>	<p>・確定ではないが、今年度は明らかに105日以上の休養は全クラブが達成している。【○】</p> <p>コロナ対応での疲労は大きかった。教員定数減(1クラス減なので)に備え、組織改編を行ったり、校長と教頭が多くの仕事を担い協力したが教員の多忙感を軽減させるには至らなかったが、コロナ禍の影響を考慮すると評価はできる。 ・総合リスク 111【○】</p>